

これぞ  
なつとく!

# 三鷹の森の学力向上

## 小・中一貫カリキュラムに基づく9年間

国  
語

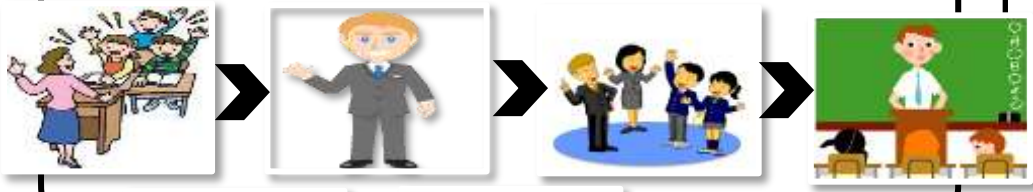
中1ギャップ。小学校と中学校の様々な違いは、憧れであり希望であり楽しみであるが、時に大きな壁となって子どもたちの前に立ちはだかる。この時期、不登校になる子どもが急激に増えることから問題視されてきた。三鷹の森学園では、小・中の先生方が一体となり、スムーズな移行をめざし取り組みを進めている。

小・中の先生方がコミュニケーションをとり、その違いを実感することから始めた小・中一貫カリキュラム。今回は、その中でも今年度の学園目標の一つである「学力向上」について、先生方へのインタビューや研究授業の取材を交えてお伝えしていく。

英  
語

### 中学の先生による乗り入れ授業の流れ

英語を話すなどということは、とても恥ずかしくて抵抗のある親世代からすると驚きの授業風景だ。とても楽しげにALTの先生や友達と英語でコミュニケーションをとっている。あいさつから始まり、英語の歌を歌う。次にねらいとなるターゲットセンテンスを身近な場面を使って練習し、友達や先生とのコミュニケーション活動で、楽しく英語に触れるようにする。6年生の授業には三中の先生が乗り入れ、文字の読み書きを取り入れた活動も行っている。小・中の強力タッグで、言葉の垣根を越えたコミュニケーション力を身につける。



算  
数  
・  
数  
学

### 乗り入れ授業

小学校の先生が中学の数学の授業に加わり、生徒のすぐそばにびったりと寄り添っている。少し前までは考えられない光景だが、とても心強い。小⇄中の先生の間でやりとりされる連絡ノートには、個々の生徒の課題やがんばりなどがびっしりと書かれていて、子供たちのノートに負けない充実ぶりだ。

### 習熟度別少人数授業

小学校では「ぐんぐん」「こつこつ(がっちり)」「じっくり」などの名称で3グループに、中学校では「標準」「応用」の2グループに分け、少人数で授業を行う。またノートの取り方も指導している(下段参照)。



体  
育

### 新体力テスト

- ・上体起こし ・長座体前屈・反復横跳び
- ・20m シャトルラン・50m 走・握力
- ・立ち幅跳び・ソフトボール投げ

継続すると、体力の高まりが子供自身にもよくわかりますね。



### 体づくり運動

体ほぐし運動で体が柔らかくなると、より動けるようになる。また、遊びの要素を取り入れた運動で楽しく体を動かし体力を高めていく。運動の苦手な子どもでも自分にあった運動がわかれば、進んで運動しようとするようになる。

“健全な精神は健全な肉体に宿る”

### 思いを伝え合う力

「話すこと、聞くこと、話し合うこと」三鷹の森では9年間かけてこれらを系統的に学んでいく。相手がどう考えているのか、何を伝えているのかを的確にとらえようと自分の考えをもち、思いを伝え合うことができる。そんな姿を目指して各発達段階に応じた実践が行われている。



また、朝読書にも取り組んでおり、朝の15分間を読書の時間にしている。



**あ**【あつぷたいむ】  
小学校の放課後補充学習。木曜日を基本に月2～4回、学習内容の確実な定着をはかるため、人数での個別指導を行う。

**【ほじゅうがくしゅう】**  
小学校では夏休みにサポート学習を実施している。中学校では同じく夏休みに、定期テストの結果をふまえた学習指導を行う。3年生は受験対策のための5教科補習授業。

補充学習  
アップタイム

**き**【きょうかたんになせい】  
子供の育ちを学級担任のみでなく、学年の複数の教員で共有し見守るために、特定の教科に限って同学年の他のクラスの授業を受け持つ。

例えば、五小の森賀先生は5-1の担任だが5-2の体育も受け持っている。一人一人の子供の課題を担任だけで抱えず、学年全体で対応していくことができる。

学年教科担任制

**し**【じゅぎょうかいぜん】  
授業スキル向上のため、また学園の小・中一貫カリキュラムの充実をはかるため、様々な研究授業が行われている。特定のクラスの先生の授業を先生全員で参観し、授業方法を議論する。今年度は昨年度より大幅増の7教科について研究授業を行っている。先生方の授業改善が子供たちの学力向上につながることは言うまでもない。

授業改善

**の**【ノートのとりかた】  
算数・数学では、授業内容をまとめた書き込み式のワークシートではなく、板書をもとに、感じたことや友達の意見も書き入れながら子ども自身がノートを作り上げていく。

1回の授業が見開き2ページにまとめられた「ノート」。学力向上のカギを握る。

ノートの取り方指導